

夏は終わらない その7

300記念です。全体の3分の2に達したとあってよいと思います。

「はやぶさ2」の成功は、人類の宇宙探査にとってこの上ない成果をもたらすことが予想されます。県内の企業も、この試みに参加しており、その成功によって時代を先取る研究開発が促進されることはこの上ない喜びであると思います。

しかし、「はやぶさ2」も、地球に帰還して初めて意味を成す試みです。最終的にたどり着くことこそが何よりも最優先されると考えます。たどり着いたところからすべては始まるのです。

この校長便りの試みも同じであり、生徒諸君の学習についても同じであると考えます。

いつどのようにたどり着き、そのたどり着いたところからどのように始まるのかが問われるのだと考えます。その意味で、夏という季節は、まだまだ終わらないのだということが出来ます。

それでも、時をつき重ねていくことは、やがて、季節が代わることを意味します。秋がやってくるのです。

立原道造 「やがて秋……」(詩集『暁と夕の詩』より)

やがて秋……

やがて 秋が 来るだらう

夕ぐれが親しげに僕らにはなしかけ

樹木が老いた人たちの身ぶりのやうに

あらはなかげをくらく夜の方に投げ

すべてが不確かにゆらいである

かへつてしづかなあさい吐息にやうに……

(昨日でないばかりに それは明日)と

僕らのおもひは ささやきかはすであらう

——秋が かうして かへつて来た

さうして 秋がまた たたずむ と

ゆるしを乞ふ人のやうに……

やがて忘れなかつたことのかたみに

しかし かたみなく 過ぎて行くであらう

秋は……さうして……ふたたびある夕ぐれに——